

1. 件名：「大間原子力発電所の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（131）」

2. 日時：令和4年12月22日（木）13時30分～14時50分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門：

岩田安全管理調査官、佐藤主任安全審査官、永井主任安全審査官、  
藤川安全審査官、馬場係員

電源開発株式会社 首藤 敦 執行役員 原子力事業本部 原子力技術部長

他12名※1

※1 テレビ会議システムによる出席

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり ※2 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<本年12月8日受取済>

・大間原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動のうち内陸地  
殻内地震について（コメント回答 その3）

（隆起再現断層による地震の地震動評価の方針）

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はい、電源開発の首藤でございます。
0:00:03	本日は隆起制限断層による地震動評価の評価方針についてご説明となります。
0:00:09	具体的内容について、担当へ御説明ご説明させていただきますので、よろしくお願いたします。でお願いします。
0:00:18	梅川サカモトでございます。先ほど高岡から話がありました通り、リモートさんカーの者がおりますので、そちら開催の都合でもしお聞き苦しいとか聞き取りにくいことがあったら、
0:00:30	お手数ですけれども、その都度、ご指摘いただけるようお願いいたします。
0:00:35	それでは本日の資料ですけれども、資料はC A 183 という資料でこれは12月8日のヒアリング資料と同じものになってます。内容は隆起再現断層による地震の、
0:00:47	地震動評価方針に関する資料になります。
0:00:51	1013回の会合からの主な変更点としましては、
0:00:56	前回の10月6日のヒアリングでご説明しましたけれども、
0:01:00	利益シミュレーションを経て、基本ケースの震源モデルを設定するのではなく、
0:01:05	基本ケースを選定した後に、
0:01:08	地形発達過程の説明性の確認をする程度の位置付けとしたことに変更はございません。
0:01:15	今回の変更点といたしましては、
0:01:18	前回のヒアリングでいただいたコメント等を踏まえまして、
0:01:22	利益再現断層の想定領域におきまして、古い地層、地質構造に基づいて想定される屈曲した地表トレースの評価、これを糸口として、
0:01:33	地震動評価モデルの設定に至るプロセス、
0:01:36	及び考え方、
0:01:38	それと、F 14断層による地震の考え方との違いがわかるように記載を充実してございます。
0:01:46	それでは内容について担当の八木からご説明をいたします。説明時間は25分程度を考えてます。よろしく。
0:01:54	電源開発の八木です。それでは資料、C A 183 についてご説明いたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:00	ページ 2 枚ほどめくっていただいて、括弧 1 ページをご覧ください。
0:02:05	ここでは 1013 回審査会合での隆起再現断層による地震に係る指摘事項を示しております。
0:02:12	S4 の中から資料の 11 の地形発達過程の再現性の評価に係るコメントについては、該当箇所該当いたしますが、回答にあたっての考え方についてこの後、括弧の 4 ページでご説明いたします。
0:02:26	なお、S4-9 及び S4-12 については、次回以降の審査会合にてご説明いたします。
0:02:34	(2) ページ、3 ページですけれども、1013 回審査会合からの主な変更点を示しております。
0:02:42	主な変更点としては、地震動評価の実施手順を変更しておりますが、内容は 10 月 6 日に実施したヒアリングの内容と概ね同じですので説明は割愛させていただきます。
0:02:55	(4) ページをご覧ください。
0:02:59	ここではコメント回答の概要を示しております。
0:03:03	結城が説明できる領域に関する S4-10 及び記載隆起再現性の評価基準の閾値に関する S4-11 のコメントについては、
0:03:13	次のような地形発達過程の検討を行うことで、該当いたします。
0:03:18	まず、地形発達過程の再現性に係る判定基準を明確に示すことは困難であると判断し、
0:03:25	隆起シミュレーションによる地形発達過程の再現性によって、基本ケースの震源モデルを選定することを取り上げております。
0:03:33	一方で、審査ガイドに示される地形発達過程の検討については、基本ケースの震源モデルを設定した後に、雪シミュレーションを実施し、その結果が付近の隆起域の特徴から、
0:03:45	大きく外れていないことをもって確認する方向で説明いたします。
0:03:51	続いて、1 ページからは、隆起再現断層による地震動評価について、詳しくご説明いたします。
0:03:59	1 から 3 ページでは、本資料の掲載範囲を示しておりますが、今回は、3 ページですね、に示します目次内の赤枠の範囲、
0:04:09	5 章、5. 一節から 5.3 節までの、特に地震動評価の方針の部分についてご説明いたします。
0:04:18	5 ページをご覧ください。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:21	ここでは地震動評価の評価方針とその実施手順についてご説明いたします。
0:04:27	まず隆起再現断層による地震の位置付けですが、これは地質調査からは、下北半島西部の広域的な地殻変動をもたらすような活断層や、
0:04:38	活断層を示唆する地下深部の段差構造等が認められないものの、
0:04:43	相対的に隆起速度の速い領域、これを以降大間付近の隆起域と言いますが、これが敷地に近いため、地震動評価上の保守性の観点から検討用地震に選定し、
0:04:55	地震動を評価するものとなります。
0:04:58	結城再現断層による地震は、下北半島西部の広域的な地殻変動をもたらすような活断層等が認められないことから、大間付近の隆起域を説明しうる。
0:05:10	仮想的な活断層の地表トレースを隆起再現断層の想定領域に想定し、
0:05:16	地表地震断層が生じない規模の地震として評価いたします。
0:05:21	続いて実施手順としては、ページ下部に示す手順に従って地震動を評価いたします。
0:05:28	6ページをご覧ください。
0:05:31	ここでは地質の審査でご審議いただいた、大間付近の隆起1と比木再現断層の想定領域について改めて整理しております。
0:05:41	7ページをご覧ください。
0:05:43	力再現断層による地震の地震発生層は、概ね同位置に想定しているF14断層による地震の地震発生層と同じく、
0:05:52	上限深さを3キロメートル、下限深さを15キロメートルに設定いたします。
0:06:00	8ページをご覧ください。
0:06:02	ここからは5.3節の震源モデルの設定についてご説明いたします。
0:06:08	ページの課題に示しますフローの通り、①から⑤の手順で震源モデルを設定いたします。
0:06:15	①の基本ケースの震源モデル候補の設定においては、断層位置などの断層パラメータを地質調査結果から一義的に決めることができませんので、
0:06:26	当間付近の隆起域や隆起再現断層の想定領域等に基づき、古い地質構造や地震動に関する知見を踏まえて設定しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:36	その設定の考え方はこの後、13 ページから 22 ページでご説明いたします。
0:06:42	なお、ここで言う、古い地質構造とは、後期更新世よりも前に形成された地形地質構造であり、新第 3 系の地質を指します。
0:06:52	その具体的内容は、次の 9 ページから 12 ページに示しております。
0:06:58	ページ飛びまして 13 ページをご覧ください。
0:07:04	ここから基本ケースの震源モデル候補のパラメータの設定の考え方をご説明いたします。
0:07:10	まずは断層位置の考え方についてです。
0:07:14	基本的な考え方としては、利益再現断層の想定領域において地表トレースを想定いたします。
0:07:21	地表トレースの設定のフロア、ページの下段に示す通り、
0:07:25	前述の利益再現断層の想定領域の設定根拠とした古い地質構造に基づき、
0:07:32	三条の究極したしオートレースを設定します。
0:07:35	そのうちの敷地に及ぼす影響が大きくなる、以上を抽出いたします。
0:07:40	この二条の地表トレースに対して、地震本部の強震動評価の事例及び、敷地に及ぼす影響を踏まえて、形状を直線上に置き換えます。
0:07:50	最終形としては、この直線上の二条の地表トレースは層厚差が比較的に開き比較的に開いていますので、想定領域に対する網羅性の観点から、
0:08:01	走行性 10 度程度となるように、間に一条のショートレースを加えて、
0:08:06	計算上の直線状の地表トレースを基本ケースの震源モデル候補の地表トレースに設定いたします。
0:08:15	14 ページをご覧ください。
0:08:18	ここからは先ほどフローに従って、
0:08:21	地表トレースの設定について詳細にご説明いたします。
0:08:25	隆起再現断層の想定領域の設定根拠とした古い地質構造に基づく地表トレースとしては、三条の屈曲した地表トレースが設定できます。
0:08:36	これらは、地表トレースの西部と東部で異なる地質構造等から構成されますが、概ね同一走向の構造に基づくものであることから、こと及び、
0:08:47	想定される断層長さが 20 キロ程度であることから、一つの区間として活動するものとして考えます。
0:08:54	この三条の屈曲した地表トレースに対し、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:58	地表トレースによって敷地に及ぼす影響が変化するパラメーターである。
0:09:02	地震規模と断層から敷地までの距離を確認すると、右下の図表に示すように、地震規模は、北限屈曲が最大となり、
0:09:13	断層最短距離は、南限屈曲がさい。
0:09:17	はい。どんなあることから、この二つの地表トレースの敷地に及ぼす影響が大きいことがわかります。
0:09:24	15 ページをご覧ください。
0:09:27	敷地への影響が大きい奥元屈曲と南限屈曲に対し、直線上に置き換えた値をトレースを設定します。
0:09:36	その理由としてはまず、
0:09:38	地震調査研究推進本部の強震動評価事例を確認すると、調査に基づく活断層位置が弯曲している場合や、複数の活断層群で構成される場合でも、
0:09:50	震源断層モデルの推奨トレスを設定する際は、
0:09:53	活断層を代表するような直線上町をトレースに設定することが多いことが挙げられます。
0:10:00	さらに、ある程度傾斜した震源断層が、
0:10:03	その傾斜方向に屈曲する場合、局部の断層面が聞かれるため、
0:10:09	同一短編を持つ直線上の地表トレースに比べて、地震動評価上重要な地震規模が小さく設定。
0:10:17	されるということ。それから、隆起再現断層の場合は、敷地との位置関係から、同一短編を持つ直線上の地表トレースの方が敷地までの距離が近くなることから、
0:10:28	直線上の地表トレースの方が敷地に及ぼす影響が大きくなるということが理由となります。
0:10:35	北限屈曲等南限屈曲を直線上に置き換えた地表トレースは、
0:10:40	両端点が隆起再現断層の想定領域に収まるように設定し、規模最大トレース及び距離最短トレースと名付けて設定いたします。
0:10:51	名前の通り、規模最大トレースは、想定上記内で地震規模が最大となるように設定し、距離最短トレースは敷地までの距離がさい。
0:11:00	担当なるように設定しております。
0:11:04	16 ページをご覧ください。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:09	基本ケースの震源モデル候補の地表トレースは、先ほどの直線上に置き換えた地表トレースである規模最大トレースと距離最短プレスの二乗を設定いたします。
0:11:22	さらに、両者の走行性 20 度程度と比較的開いていることを踏まえて、
0:11:27	隆起再現断層の想定領域に対する網羅性の観点から、両者の間に中間トレースという一条の地表トレースを設定します。
0:11:37	従って、基本ケースの震源モデル工法の地表トレースは、
0:11:42	3 条を設定することにいたします。
0:11:45	17 ページをご覧ください。
0:11:48	続いて、断層傾斜角の考え方についてです。
0:11:52	下の図の通り、隆起再現断層の想定領域の南側に大間付近の隆起域が広がっていることから、想定領域より南側を隆起させる断層として、
0:12:04	南傾斜の逆断層を想定します。
0:12:07	また、下北半島を含む東北日本コウノ活断層は、正断層のインバージョンが主体であり、高角な逆断層が卓越すること。
0:12:16	大間付近の隆起域に唯一認められる震源として考慮する活断層である F14 断層の断層傾斜角は、地質調査によると、鉛直または高角であること。
0:12:27	さらに、強震動予測レシピでは、高角な断層の場合、断層傾斜角を 60 度以上としていることを踏まえて、断層傾斜角は 60° に設定いたします。
0:12:41	18 ページをご覧ください。
0:12:44	続いて、地震規模の考え方について説明いたします。
0:12:49	利益再現断層による地震は、下北半島西部の広域的な地殻変動をもたらすような活断層等が認められないため、
0:12:58	地表地震断層が生じない規模の地震であり、断層破壊領域が地震発生層の内部にとどまると考えられます。
0:13:06	従って、断層幅は、地震発生層を飽和する断層幅未満に設定することが考えられますが、
0:13:14	ここでは、右下の断面模式図に示すように、保守的に断層傾斜角が 60° の場合の地震発生層を飽和する断層幅 13.9 キロメートルまで考慮することにいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:28	この場合、断層長さは、強震動予測レシピに基づく、断層長さ=ら側の地震モデル、震源モデルとなるように、13.9 キロメートルに設定することが考えられますが、
0:13:42	地震動評価上の発生を考慮し、地震発生層を飽和する断層幅 13.9 キロメートルよりも長くなる。
0:13:50	隆起再現断層の想定領域に設定した致傷トレースの長さ 17.8 から 19.9 キロメートルに設定することにいたします。
0:14:00	この設定では、地震発生層を飽和する断層幅を考慮していることにはなりません、
0:14:06	地震モーメント $M_0$ は最大でも $4.4 \times 10^{-18}$ 乗ニュートンメートルとなり、島崎 1986 等に基づく地方地震断層が生じる地震規模とされる。
0:14:19	$M_0$ が $7.5 \times 10^{-18}$ 乗ニュートンメートルよりも小さい規模になっていることを確認しております。
0:14:27	19 ページをご覧ください。
0:14:29	ここでは、これまでご説明してきた抛出位置パラメータの設定についてまとめております。
0:14:35	20 ページをご覧ください。
0:14:40	ここからは微視的パラメータの考え方についてです。
0:14:44	まずはアスペリティ数の考え方をご説明いたします。
0:14:49	アスペリティ数は過去の内陸地殻内地震の震源インバージョン結果を整理したサマビル達 1999 等のデータセットによると、
0:14:59	$M_0$ が $1 \times 10^{-19}$ 乗ニュートンメートルよりも小さい地震規模では、アスペリティは概ね一つのつとになっているとする知見を踏まえて設定いたします。
0:15:10	利益再現断層の想定領域に想定される地震モーメントは最大で $4.4 \times 10^{-18}$ 乗ニュートンメートルであり、
0:15:19	$1 \times 10^{-19}$ 乗ニュートンメートルよりも小さいことから、アスペリティは一つに設定いたします。
0:15:27	21 ページをご覧ください。
0:15:30	ここではアスペリティ位置の考え方についてご説明いたします。
0:15:35	杉山ほか 2002 及び強震動予測レシピによると、地表地震断層の変位量分布は、震源断層浅部の滑り量分布とよく対応しているとされており、
0:15:46	仲田 2008 でも同様のことが指摘されております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:15:50	植木再現断層は、下北半島西部の広域的な地殻変動をもたらすような活断層や活断層を示唆する地下深部の段差構造等が認められないため、
0:16:01	アスペリティ位置を一義的に設定することができないということがあります。そこで、
0:16:05	震源を特定して策定する地震動として評価すること、及び、先ほどの杉山ほか 2002 等の知見を踏まえて、大野付近の隆起域に充実に認められる。
0:16:16	活断層である F 14 断層一次を水の滑り量の大きい領域と仮定し、アスペリティは F 14 断層位置に設定いたします。
0:16:28	22 ページをご覧ください。
0:16:31	ここでは微視的パラメータの設定についてまとめております。
0:16:36	23 ページをご覧ください。
0:16:39	ここでは先ほどご説明したパラメータにより設定した三つの基本ケースの震源モデル候補のモデル図及びそれらの諸元を示しております。
0:16:52	24 ページをご覧ください。
0:16:54	先ほどお示した三つの基本ケースの震源モデル候補。
0:16:58	これらは表に示すように、
0:17:01	地震規模と敷地までの距離から一つに選定することが困難ですので、
0:17:06	断層モデルによる地震動評価を実施し、地震動の敷地に及ぼす影響を検討の上、基本ケースの震源モデルを選定することといたします。
0:17:17	25 ページをご覧ください。
0:17:20	ここでは、地表トレースの異なる三つの基本ケースの震源モデル工法の断層モデルによる地震動評価結果を示しております。
0:17:29	地震動レベルはどのモデルでも同程度であり、周期によって新地震動レベルの大小関係が入れ替わることから、基本ケースの震源モデルとして、
0:17:41	三つのすべてを選定することにいたします。
0:17:45	26 ページをご覧ください。
0:17:50	基本ケースとして選定した。
0:17:52	三つの震源モデルに対し、大間付近の隆起域における後期更新世以降の地形発達過程の説明性を確認いたします。
0:18:02	この地形発達過程の説明性は隆起シミュレーションによって、閾値を設けた安定をするのではなく、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:10	算出される地震活動 1 回当たりの鉛直変位量分布が、大間付近の隆起域の特徴と大きく外れていないことを確認いたします。
0:18:22	27 ページをご覧ください。
0:18:24	ここでは隆起シミュレーション結果を示しており、算出された地震活動 1 回当たりの鉛直変位量分布が、大間付近の隆起域における後期更新世以降の
0:18:36	地形発達過程を説明可能であることを確認しております。
0:18:41	28 ページをご覧ください。
0:18:44	ここからは、
0:18:46	考慮する不確かさの整理と、それに基づく検討ケースの設定についてご説明いたします。
0:18:52	まずここでは考慮する不確かさの基本的な考え方を示しております。
0:18:58	29 ページをご覧ください。
0:19:01	ここでは、基本ケースの震源モデルと不確かさの考慮について整理しております。
0:19:07	基本ケースの震源モデルに対し、断層傾斜角の不確かさとしては、
0:19:12	共振の予測レシピに示されるより低角な $45^{\circ}$ を考慮いたします。
0:19:18	地震規模は、基本ケースにおいて、地震動評価上の保守性を考慮しておりますが、さらなる不確かさとして、島崎 1986 等に基づく、
0:19:28	地方地震断層が生じる地震規模として、
0:19:31	M07.5K10 の 18 乗ニュートンメートル断層永利長さとして 26.5 キロメートルを考慮いたします。
0:19:40	アスペリティの短周期レベルの不確かさとしては、
0:19:43	新潟県中越沖地震の知見を踏まえ、強震動予測レシピの 1.5 倍を考慮いたします。
0:19:51	アスペリティ数の不確かさとしては、
0:19:53	大間付近の隆起域が、
0:19:55	敷地付近まで広がっていること、及びサービス T a l l 1999 や長振動予測レシピ等の知見を踏まえて、アスペリティを二つ設定した場合を考慮いたします。
0:20:08	なお、その際面積比は、長振動予測レシピに基づき、2 対 1 とし、敷地に近くなるアスペリティの面積を大きく設定いたします。
0:20:18	また、アスペリティ位置及び段破壊開始点の不確かさについては、藤井 4 断層による地震の考え方と同様に、偶然的な不確かさとして、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:28	基本ケースにあらかじめ考慮いたします。
0:20:32	30 ページをご覧ください。
0:20:36	ここでは、検討ケースを示しております。
0:20:40	設定した三つの基本ケースに対しては、それぞれ断層傾斜角、地震規模、短周期レベル及びアスペリティ数の不確かさを考慮することで考えております。
0:20:53	なお、地震モーメントを算出する際は、地震発生層を飽和する断層幅を考慮しておりますので、強震動予測レシピに基づいた準じて、
0:21:02	入倉三明 2001 に基づき算定することを基本としております。
0:21:08	ただし、3 ビル T a l l 1999 に基づき算定した値の方が大きい場合は、発生観点からのサービスを用いて算定することにしております。
0:21:21	アスペリティ数の不確かさケースにおいては、一つ目のアスペリティは、基本ケースと同様に、F 14 断層の位置の断層状態に敷地に寄せて配置いたします。
0:21:32	二つ目のアスペリティ位置は、地表に活断層が認められない位置に、
0:21:36	配置することとなるため、地表地震断層の変位量分布が震源断層浅部の滑り量分布とよく対応しているとする、杉山ほか 2002 等の地形に基づけば、
0:21:48	震源断層浅部に位置するとは考えがたいと考えられます。
0:21:52	従って、震源断層深部にアスペリティがあるものと仮定し、震源断層の深部のうちの中でも保守的に敷地に近づくように、
0:22:01	敷地下方の断層中央に配置いたします。
0:22:06	31 ページから 33 ページでは、
0:22:09	各検討ケースの震源モデルを示しております。
0:22:13	34 ページをご覧ください。
0:22:17	ここでは断層パラメータの設定フローを示しております。
0:22:22	各検討ケースの断層パラメータの設定については、次回以降の審査会合にてご説明いたします。
0:22:29	35 ページからは、補足説明資料の説明となります。
0:22:34	まず 36 ページから 37 ページでは、
0:22:37	下北半島西部の広域的な地殻変動が何を出すのかという具体的な内容を示しております。
0:22:45	38 ページから 39 ページでは、地表トレースの形状が地震規模に及ぼす町、つまり、屈曲屈曲形状よりも直線上の地表トレースの方が、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:57	地震規模が大きくなることを確認しております。
0:23:01	40 ページから 43 ページでは、
0:23:04	隆起再現断層による地震と F 14 断層による地震の違いを明確にするため、両者の考え方の違いや、考慮する不確かさの違い等を比較して示しております。
0:23:17	まず、41 ページでは、
0:23:19	両者の基本ケースの震源モデルの考え方等を比較しております。
0:23:24	両者の主な違いとしては、地域再現断層は、地質構造から、
0:23:29	活断層が認められる F 14 断層とは異なり、
0:23:33	地質調査から活断層等が認められ、
0:23:36	ないため、地震動評価上の保守性の観点から、隆起再現断層の想定領域の設定根拠とした古い地質構造に基づき想定する仮想的な断層である点や、
0:23:48	南傾斜の逆断層として評価するため、
0:23:52	以来横ずれ断層として評価する F 14 断層よりも敷地に、敷地までの距離が近くなっている点が挙げられます。
0:24:01	次に、42 ページから 43 ページでは、
0:24:05	各検討ケースの震源モデルを比較して示しております。
0:24:11	主な違いとしては、隆起再現断層は、隆起再現断層の想定領域に複数の地表トレースが想定できることから、
0:24:20	想定領域の設定根拠とした古い地質構造に基づき、三つの基本ケースを設定していること。
0:24:27	それから、仮想的な断層を想定しており、相馬付近の隆起域が敷地付近まで広がっていることを踏まえ、
0:24:34	F 14 断層による地震とは異なる不確かさとして、
0:24:38	敷地までの距離がより近づくような、45 度の断層傾斜角の不確かさを考慮していることや、地震規模、アスペリティ数の不確かさを考慮していることが挙げられます。
0:24:50	特に、アスペリティ数の不確かさケースでは、地震動評価上重要なアスペリティを敷地下方の断層中段に配置している点も違いとして挙げられます。
0:25:02	44 ページから 45 ページでは、参考資料として、現在の地震動評価方針で地震動を評価した場合の、敷地に及ぼす影響が最も大きくなると想定される。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:15	短周期レベルの不確かさケースの地震動と、第 1035 回審査会合でお示しした。
0:25:21	震源を特定せず策定する地震動のうち、標準応答スペクトルを考慮した地震動を比較して示しております。
0:25:29	両者の地震動レベルは概ね同程度となっております。
0:25:34	説明は以上になります。
0:25:39	はいありがとうございました。そうしましたら規制庁から確認をお願いします。
0:25:45	はい。規制庁佐藤ですけども。
0:25:48	刀禰ちょっと大きなコメントからさしていただくとですね、この 13 ページちょっと開いていただきたいんですけども、
0:25:59	13 ページね、これ。
0:26:01	考え方、フローが書いてあるんですが、
0:26:05	今回今までと違うのは今までその 2 枚モデルだったのを 1 枚も断層モデルにしますという話になっています。
0:26:17	これって無理無理に 1 枚モデルにする必要は実はないんじゃないかなってというのが私の個人的な感想なんですけども、15 ページをちょっとお願いしたいんですが。
0:26:30	これ 15 ページで、1 枚モデルにする理由として、
0:26:35	地震本部の強震動評価事例を参考にして 1 枚と 1 枚モデルにすることが多いですってというのが一つ目の矢羽根で書いてますんでこれは電源開発の解釈ですね、おそらく。
0:26:51	レシピではそんなこと言っていないんですけどね。
0:26:55	この二つ目が地震規模がおっきくなるんです。保守性の観点から 1 万モデルの方が大きくなるんですっていうこの二つの理由からだ。
0:27:05	そういうふうに理解したんだけど、まずその理解でよろしいですか、そういう主張でいいですか。
0:27:13	電源開発の八木です。あと 14 ページをご覧いただきたいんですけども、
0:27:19	それでまず私服ふう地質構造から設定すると屈曲したような形状になると、
0:27:25	ポツの二つ目のところで、上述の通りというところですけども、この地表トレースの西部と東部ってというのが、異なる地質構造等を結構受けるところですけども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:35	兵頭というのが、ほとんどですけれども、概ね同一層厚の構造に基づくものであると、いうことと、あと断層の長さが 20 キロ程度と短いということで、まず 1、一つのセグメントとして活動するというふうに考えております。
0:27:48	これを踏まえた上でおっしゃる通りですね、15 ページの二つの理由ですね地震のページですね、地震本部の弊社の判断ですけども地震本部の事例が多いと。
0:28:00	いうことと、あと敷地の別影響を考えた考えますと、直線にした方が、明らかに影響が大きくなるという点を踏まえて、直線上に置き換えたということになります。
0:28:11	はい。規制庁佐藤ですけども。
0:28:15	これね、このまずこの 15 ページのこのね事例の絵がねよくわからないんですけどこれ、規模感としてね断層長としてこれ、どれぐらいのものを考えているんですかね資本を。
0:28:27	それを考えた上でいろいろセグメントは曲がってるんだけどまっすぐに考えました、1 枚もので考えましたっていう、この説明の図なんだけど、
0:28:36	この規模感ってどれぐらいなんですか。
0:28:40	これちっちゃくてよくわからないんですけどね。はい。電源開発の李です。
0:28:44	お示ししているものが、高山大原断層体の地震、
0:28:49	あれですね、こちらに関しては複数書いている方になる、右側の方になるんですけども、
0:28:54	そうですね。うん。
0:28:57	断層長さは最大のもので 50 キロメートル最短なので 24 キロメートルですね。
0:29:04	もう一つの左側の方は、琵琶湖西岸断層体のものを示しております、
0:29:09	こちらの断層長さは 60 キロになりますね。
0:29:14	はい、わかりました。
0:29:16	まあねこれレシピの、震源断層モデルの位置構造っていうその考え方に解説あるんですけども必ずしもこれ、後で読んでいただきたいんですけどね。
0:29:27	株主も別に 1 枚 1 枚モデル、1 枚モデルにするということは書いていなくて、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:36	2枚モデルでも不必要に応じてそういうことや、今やっていいというそういう趣旨のことが書いているのでちょっと後で見たいんですけども、我々としてはねこれ仮想震源断層なので、
0:29:47	これ今その規模が大きくなりますっていう話があったんですけども、
0:29:52	やっぱりその当初のね御社の考え方を何ていうかな尊重すればこれ2枚モデルでもね我々はいいと思っているんですよ実は。
0:30:01	無理にその1枚モデルにして規模がややこっちの方が大きく、M0が大きくなるんですけどっていう説明は、
0:30:07	この段階では別にする必要はないんじゃないかなんかと思っはいるんですよ、実は。
0:30:13	もう少し何か御社の考え方をね、1年前ぐらいの会合で、説明していただいた考え方をもう少し大事にした方が、
0:30:22	私はより何ていうかな、この赤いハッチングを示したここに仮想震源断層を受けますと、当初、ご説明されたねその趣旨にそぐっているのではないかなと、そういうのではないかなんかと思っています。
0:30:36	それからあとは先ほど説明にもありました通りね、この西側と東側では若干地須賀の構造が若干違いますという話があって、
0:30:45	であれば2枚でおくのもそれはそれなりの理屈が通るんじゃないかなんか思っているんですけども。
0:30:52	これを1枚にしたら、わざわざ理由っていうのはね、ちょっとあんまりよくわからなかったんで、今のコメントをさしていただいてその意図を確認させていただいたということなんですけども。
0:31:03	それでなおなおわかんないのかね、この16ページ以降にね、今度はその、
0:31:09	三つ考えたんですけども、規模が最大になるものと、規模が最短になるものを二つ選んで、さらにその中間を中間トレースと称して、また三つを選んできんなってんですよ。
0:31:23	まだ考え方もよくわからないんですけども、
0:31:26	もう規模等も、要するにあれですか、敷地への最短距離っていう観点でこの二つを代表選手で選んだ件だなんだけども、
0:31:38	それじゃちょっとその何ていうかな、その隙間がちょっとありすぎるので中間トレースっていうのを考えてみましたというそういう説明なんですかね。
0:31:47	端的に。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:48	言うど、
0:31:51	その通りなんですけれども、まず
0:31:54	区立コードに基づく、
0:31:56	これですよねこれを三条今引いてますけれども、もうそもそも
0:32:01	再現断層の評価としては、隆起再現その想定領域という領域が与えられております。これに対してはちょっと、立ち戻って古い地質構造を参照して設定しているということなんですけれども、
0:32:13	ただその領域に対する網羅性という観点では、三条だけで足りるのかという点がございまして、そういった感じを踏まえると直線上にすると、やはり網羅性というところが、
0:32:23	まず額的にも、
0:32:26	大きくなるということが言えますので、その領域に対する網羅性ということを考えると、直線状にする方が、評価が守ら終わらせが担保されるという考えで設定しております。
0:32:40	おっしゃる通りですねまず
0:32:42	古い地質構造から、
0:32:45	基づいて、規模最大と距離最短というふうに場を設定しているんですけども、
0:32:51	そうするとやはり病院に対するもの性の関係を考えると、距離もそこそこ近くて、規模もそこそこ大きいようなものがまだ引けるという点がありますので、
0:33:02	一条の中間トレースというものを設定したということになります。
0:33:08	はい。佐藤ですけどもですね、いいですか。どうぞ。
0:33:12	はい。すいません。先ほど一つ前の質問の、
0:33:16	2枚断層にしなかった理由なんですけども、
0:33:19	それちょっと弱説明ちょっと使い変えるんですが、
0:33:22	以前お示した2枚断層の時というのは、隆起をベースに、
0:33:27	地下の地下構造の証言を設定しようという考えがありましたそうしますとどうしても隆起の中心である、東側に滑りおきたいと。となると、どうしても東側にやはり一つ独立は断層オカなきゃいけないだろうということで隆起ベースで、
0:33:41	地下の商業企業ともならば、東側にも別の独立な断層が必要だろうということで設定しています。今回は隆起の位置付けを下げましたので、む

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



	しろ地表痕跡ベースで断層の諸元を決めましょうというストーリーです。
0:33:54	そうしますと、断層として確認できてるのは東側のF14 だけですので東側の古い構造って言うのは、断層ですらないしそもそも活動もしていないものです。それをベースに断層を設計するというのは、
0:34:07	それこそ基準規則にもバン行から外れる話になりますので、それはあまりよろしくないだろうということで、隆起を0 にしないのであれば、分析ベースであるのであればもうこれ1枚で考えるしかないというのが我々の考えです。
0:34:22	すいません澤サトウですけどもなんか同じ事言ってるだけの様な気がしないでもないんですけどね。
0:34:27	別に仮想震源断層等でその基準規則云々って話ではなくてこれは東通の、実はその横浜断層の東傾斜。
0:34:36	の話もあったんですけども、ここはね結構考え方は自由度はあると思うんですよ。ただこのF14 の痕跡の、これをピンどめにして、この今のハッチングをかけたところに断層を置いてください。
0:34:49	って言ったら、さっき隆起のシミュレーションをメインに考えたのでって言ったけど、それとはかかわらずね、割と2枚モデルを置く方が何か割とその何ていうか説明はしやすいのではないかなって言うふうに、
0:35:02	実は我々は思っはいるんですけども。
0:35:05	別にこれ審査会合で議論すればいいんですけども、そんなイメージを我々持っています。
0:35:12	それでその行きたいです。いいですか。はい。それでね、隆起再現断層っていうその名前がね、そもそもこれ何かミスリードしちゃってるんじゃないかなって気はするんですよ実は。
0:35:23	隆起再現を別にしてくれと言ってるわけではないし、
0:35:27	前回の審査会合でも言いましたけども、それを何か
0:35:31	隆起を説明できるような断層モデルを置いてくださいって言うことも言っていないし、もうそもそも地質地質構造の議論の中でこの赤いハッチングをかけたところであれば、
0:35:42	おけるかなって言うそういう説明を御社されてるわけですよ。
0:35:47	うちもそれだったら考え方はわかりましたということで利用料にしたんですけども、
0:35:54	であればねもう隆起再現って言う言葉をちょっとね、もうなんか、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:59	別の名前にし、名前のつけ方は任せますけどね。
0:36:03	例えば隆起をも考慮したとかねその仮想震源断層っていうフレーズをね入れた方が、
0:36:09	何か
0:36:10	モデルの作り込みをしていく上ではね、
0:36:14	いいのではないかなと思っています。
0:36:17	27 ページをちょっとお願いしたいんですけども、それでまたここでその基本震源モデルを作った上で、
0:36:24	その説明性の確認っていうことでまたこのシミュレーションが出てくるんだけど、
0:36:29	確認っていうのはどういう位置付けですかこれマストですかそれとももうこれは単なる参考ですか、参考であればもう参考で、ちなみにという位置付けでおいていただければいいし、
0:36:41	その位置付けをちょっとお聞きしたいんですよ。
0:36:44	電源開発天田です。そこはですね、規制の方がどう考えるか次第だと私は思ってるんですが、そもそもこの隆起、仮称仮想断層ですねこれが活断層である根拠って何かといいますと、
0:36:59	この隆起してるっていうだけなんでその行きというか第4紀の変動ですね。でするのでその変動に対しての何らかの
0:37:06	回答が要るんじゃないかということで一応す。
0:37:09	同じようにやっぱり入れてるんですけども、いやそんなのはもう必要ないんだと。
0:37:13	いうふうに規制側が判断されるのであれば、我々の方は参考までに載せましたというふうに落とすのは全然問題ないと思っております。
0:37:22	規制庁佐藤ですけども我々はそう思ってますけどもこれ別に資料を変えてもらう必要は全然なくて審査会合の場で議論すればいいと思っているので、
0:37:32	ただそうするとやっぱりその御社としてはそんなに頭その子の隆起はやっぱりその、
0:37:37	にかこつけたいっていうか、それはそれでやっぱりその、
0:37:41	利益を説明したいというそういう話なんですとかそうすると、
0:37:47	0 勝サカモトです。
0:37:49	もともと隆起域が敷地の近くにあると敷地も含まれてますけどあるんで、それに対して、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:57	何らかのやっぱり検討が必要じゃないかっていうところから入ってますので、我々としては、そもそもが隆起なんで、
0:38:06	隆起の発達発達過程ですかこれはガイドとか規則とかにも検討するっていうようなことが書かれているんで、除くわけにはいかないかなっていうも、
0:38:16	ということになります。
0:38:18	それと先ほど最初におっしゃいました名称の件ですけども、これは我々も内部で同じようなことを実は議論をしまして、もともと利益シミュレーションで一番
0:38:29	説明性が良いものっていうのがもともと我々の考えでしたので、再現という言葉を使いましたが、今のシナリオ上は特段その震源モデル設定に対して隆起をどうこうというような形にはしておりませんので、
0:38:43	例えば佐藤さんおっしゃいましたような、大野付近の隆起域を考慮した仮想的な断層とか、そんなような、ちょっとまだ今思いつきで言ってますけど、そんなような東通の
0:38:54	高まりの名称もそんなような感じだったと思いますんで、
0:38:58	あんまり固有名詞にならないような名称で考えたいとは思っております。
0:39:05	規制庁佐藤ですけどもそうするとねさ、やっぱりそうするとね、
0:39:09	今、天野さんからのあった説明は、
0:39:14	それは我々がどう考えるかっていうかどっち、どっちかっていうと皆さんがどう考えるかの方が正しいと思うんですけど、
0:39:20	そうすると別に地形発達過程の隆起のやつはね、別にこれ隆起を各もしてるわけではないんですけど、
0:39:27	参考程度とかねちなみっていう話でもね、いいのかなという気はするんですよね。確認するってなるとね、これマストでやってるのかなって思うわけですよ。
0:39:39	なのでその位置付けをちょっと問わせていただいたというのが今の趣旨です。
0:39:43	それから 25 ページね。この基本震源モデルの置き方なんだけど、これもこの前の F 14 の不足し、断層位置の不確かさと同じでね。
0:39:52	結局これ、どれも
0:39:54	ここでまた 25 ページでまた計算してるわけよね。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:58	これもどんぐりの清倉部ですってだからこれも全部基本震源モデルに、三つ考えますっていう今のスタンスはそうですよね何かね。
0:40:11	金村さん、高本です。最初におっしゃったその
0:40:15	結城のシミュレーションつけ渡す方の件はゴシュウ理解しましたのでちょっとこちらでもう一度考えています。
0:40:20	位置付けにつきましては、
0:40:22	それと、地震 25 ページの地震動評価の件につきましては F 14 と同じと言われると確かにそのように見えるかもしれませんが、
0:40:33	一応検討のフローとして、
0:40:35	広報と挙げて、
0:40:38	広報の中から、影響の大きさ動きそうなものを基本とするっていう。
0:40:42	方針としてはそういう方針で考えてますので、何らかの形で、その対象関係がわかるような図を示さなきゃいけないということで、25 ページにお示ししてございます。
0:40:55	うん。なるほど。でもね、やっぱりここもやっぱり何か考え方やっぱもう少し整理した方がいいのかもしれないですよなんかいやどれも、
0:41:03	堂本千和でようわからんのでとりあえず三つ考え方としてその基本モデルとしておきましたってぐらいにしかちょっと我々にはちょっと聞こえないんですよ。
0:41:13	それで 29 ページに行くと、今度はその、
0:41:17	アスペリティの数なんだけどもここで突然そのアスペリティの数をね、二つ。
0:41:22	不確かさで考えますことにしますって出てくるんだけど、
0:41:27	ここで何で二つ登場してくるのか。
0:41:30	んなど。
0:41:32	思うわけですよ。
0:41:34	いや最初から二つ置いてもいいし、いや或いはその先ほど冒頭の話に戻りますけど、断層モデル、断層面を二つ置けばそれぞれに多分 1 個ずつ置くことになるので、おのずと二つ置く。
0:41:46	ことになるんだけども、
0:41:48	すそ何でここで登場してきたんですか二つってというのは、
0:41:55	電源開発の八木です。
0:41:56	二つという点に関しましては、
0:42:00	これです。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:01	20 ページをご覧くださいいたいたいですけれども、
0:42:05	過去の内陸地殻内地震の震源インバージョン結果を整理したものになり ますけれども、
0:42:11	基本的には中の、
0:42:12	十九条ニュートンメーター、今の地震であれば、スピードが一つという ような知見がございます。これを基づくまず基本では一つだろうという ふうを考えて、基本ケースでは一つ置いております。
0:42:24	ただそれ以外のものもございませし、強震動予測レシピでも、一つか二 つというような知見もございませるので、不確かさとしては、
0:42:34	アスペリティを二つ配置するということろで、
0:42:38	設定したということろでございませ。
0:42:41	規制庁佐藤です。なかなかちょっとふたアスペリティの不確かさで数を ふやすっていうのはちょっとね
0:42:48	何かなあすってこないんだけど、例えば1をね、一応変えませとかねそ ういうのは不確かさであると思っんですけども、
0:42:56	深さ方向にとか、横方向でもそうなんですけど、
0:42:59	ふた     今数をふやませ。
0:43:03	っていうのはちょっと、その不確かさと言えませ不確かさなんだけど、
0:43:07	ちょっと唐突過ぎやしないですかね何かね。
0:43:10	0 坂サカモトです。
0:43:12	先ほど八木が申した通りその規模からすると、調査で、
0:43:17	逆断層を示唆するような段差構造とか、そういったものが認められてお りませるのでこの辺は泊とか東通と、
0:43:27	主な違っところだと思っませ。そういう意味でいくと、規模的には小 さいんで先ほどの知見からいくとアスペリティが1個であらうというの は、基本的に一番最もらしい。
0:43:38	考え方なのかなっていうんで一行にませ。ただし、
0:43:42	RFPにも書いてありますけれども1セグメント当たり1個から2個ぐ らいのアスペリティっていうのは記載もありますので、
0:43:49	タニこの場合はじゃあどうなるかっていうことで、2個配置して、一つ は、F14にピン止めませので、
0:43:56	その辺りにそういうの大きい領域があると思っるのが一番合理的だろう ということろで1個置いて、もう1個は、痕跡が出てないところろに置くん で深い位置で、敷地に一番近いそうところろに置くで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしてませ。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示ませ。

0:44:08	安全面の観点から、
0:44:11	敷地の地下に多くは、下方に置く方を、面積的には大きめにしたということでございます。
0:44:19	サトウですけども一応考え方は一応わかりました。
0:44:24	良いかどうかは別としてですよ。
0:44:27	それあとは、
0:44:29	あとはマイナーな話かな。
0:44:32	30後は36ページとかねこれなんかその後ろに広域的な地殻変動って書いてるんだけどさ、補足だから外山が言いませんけども、もういらないうすよね多分ねこれね何か。
0:44:44	おそらくもう地質地質構造のところでは、
0:44:48	説明はできてるはずなので多分あえて出す必要もなからうかなと思っています。電源開発の八木です
0:44:55	その通りですけど要望の説明という意味で、補足で載せた。
0:45:02	次第ですので、必要ないということであれば
0:45:06	ということで問題ございません。
0:45:09	はい。あと39ページなんですけどもやっぱりねこれもやっぱりよくわからなくて、
0:45:13	結局、これは断層面積の相違を示したいがために直線にした方が地震規模が大きくなるっていうことを、これ。
0:45:23	4としてる事はそういうことなんですよねこのちょっと図、図の見方がよくわからないんですけどね。
0:45:29	その通りです緑色のものが屈曲したもんで赤色のものが、直線化したもの、直線化したもの。
0:45:38	そうすると
0:45:39	点線で書いている、黒点線で書いている部分が緑だと聞かれてしまいますので、面積が小さくなってしまうと、いうことを示しております。
0:45:50	結局断層面積に依存するってイベントするっていうことなんすかねそうすると、
0:45:55	地震規模の話ですので、断層面積に依存するということでございます。
0:46:02	はい、わかりました。
0:46:04	あとちょっと最初に戻らせていただきますけども、最初のね、
0:46:11	最初の絵がちょっと目がチカチカしてあれなんですけども、カラフル前ありましたね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:19	この9ページ以降のやつっていうのは、
0:46:24	9ページから12ページのやつか、ちょっとなかなかカラフルすぎてね。
0:46:29	ちょっと目がチカチカするんですけど、
0:46:31	これ、2021年の11月の会合のときの絵をそのまま使っているわけではないんですが何かもう少しや要すればその
0:46:40	こういう、こういう地質のタニ上、例えば中新統のタニ状構造とか更新、
0:46:47	等を、
0:46:48	中の経営者不連続とか市中心等の、
0:46:51	中の向斜構造とか、それで三つ考えます三条考えましたって話をしているだけなんだけど、
0:46:58	それが少し素直にわかるような絵を入れて欲しいんですよね11月、2021年の11月のやつと同じものでもいいんですけど、これ一部修正って書いてるのは、
0:47:10	どっか変えたんですかこれ。
0:47:18	風間です。図面そのものは書いてなくてキャプション今回ように少し簡略化してるだけですので、その後の
0:47:27	この1013回の時そのまんまとなっています。そのまま。はい、わかりました。12ページそしたらあれかなこれ。
0:47:34	何か重力異常のところだけちょっと青がね、ちょっと何か邪魔して、少しわかりにくいんだけどもそこでも同じ図を載ってるのか。
0:47:43	持ってんだな同じ使ってたんだなわかりました。
0:47:48	要するに、12ページだけがあるですね、一応最後の結論ですね。
0:47:55	あまりそうです。12ページが最後の結論で、これだけだと見づらいので逆に
0:48:00	91ページを足したというその流れです。
0:48:04	いたしました。
0:48:05	今日の論点はちょっとね私の大きな論点はやっぱりこの、
0:48:10	2枚モデルをやめて1枚モデルにしましたっていうその考え方だよね14ページ15ページのところ。
0:48:18	ここの考え方はいいかどうかっていうそこがちょっとおっきな話なのかなと。確かにその規模はね。おっきくなる、断層面積が、
0:48:28	大きくなるので大きくなるんだろうけれどもですよ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:32	今ここで考えるべきは、どういうふうに、その震源断層を置きますか、 って話なので、
0:48:39	そうすると素直に考えていくところ2枚モデルの方が割と、
0:48:44	割とですよ。
0:48:45	よさそうな気がするんですけどね。
0:48:49	私はそんな気がしました。
0:48:54	ちょっとこの置き方についてはね、多分議論になると思いますのでね。
0:48:59	ちょっと電源開発だけのお伺いしたい点があるんですけども、添隆起 再現断層ってこの想定領域っていうものが与えられていて、そこに地 表トレースを世道を設定するかと。
0:49:10	いう点で、古い地質構造に基づくと三条こういったものが、
0:49:14	南限屈曲とかっていうものがしているというふうに説明しているんです けれども、なかなかこうするとその想定領域、領域に対する網羅性とい う観点でいうと、なかなか
0:49:26	えっとですね面積、
0:49:28	指針規模であったりだ、敷地までの距離っていうのがなかなかこう絞り 込んでいけないっていう点が問題点としてございましたので、直線上で 評価する方が
0:49:38	明らかに
0:49:40	規模が影響が大きいものが選べると、いうふうに考えたんですけど も、その規制庁さんの考えとしては、
0:49:47	必ずしもその地震規模であったり、堰までの距離っていうパラメータ に、
0:49:53	左右されるのではなくてこういったものが引きますというような、
0:49:57	設定の仕方でもいいんじゃないかというようなご提案なんでしょうか。
0:50:02	規制庁佐藤ですけども提案というかね、
0:50:07	今言ってる網羅性っていうのはどういう観点で網羅せっておっしゃって ます。
0:50:12	もうそれは別に今、2枚モデルで置いてあって、
0:50:16	いろんな検討ができるはずだよ。皆さん実際、
0:50:21	実2枚モデルにした時に3条を作ってその間にまた、
0:50:25	保管を2、2乗入れて合計五つを考えてたよね以前はね。
0:50:31	工場の断層面。
0:50:33	断層、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:50:35	その通りで互助設定したんですけれども。うん。前回の審査会合で網羅性であったりって話をいただきまして、この領域に対する網羅性という観点でいうと、
0:50:44	やっぱりこう、屈曲したものと、屈曲角によって、全然その地震規模であったりというものが変わってきてしまうので、
0:50:52	もう無数にこう地表トレースが設定できてしまうという点がありましたので、もうその際限ないというところで直線上に置いたと。
0:51:01	ということが今回の設定なんですけれども、
0:51:07	あの電源開発サカモトでちょっと補足させてください。
0:51:11	佐藤さんのおっしゃるように古い構造に基づいて屈曲した断層を送って今日お示した通り中央とりあえずはそういうふうに分けるとは思っていますが、先ほどからの網羅性と言ってますけども、
0:51:22	地震動評価の観点でいくと網羅性っていうと敷地への影響をきちんと評価できるかっていう意味での網羅性ってなると、
0:51:29	屈曲した断層にするとどうしても
0:51:32	腐食してますので、断層面の切り換えキーが生じて、
0:51:37	近くて規模が大きかったり遠くて希望が、投機的分が大きくて、近くて規模が小さいとか、比較しづらくなってくるんですね後、屈曲のさせ方も、
0:51:49	どこで負けるかとか、いろんな考え方があって、先ほど八木が言ったように際限なくなるんで、
0:51:57	シナリオのわかりやすさという観点でいくと、こういう地表トレースは引けるけれども、地震の評価の観点では、わかりやすくするために直線に置き換えて、
0:52:08	比較しましたっていう方がわかりやすいというふうに我々としては思ってます。
0:52:17	ナガイですか今の領域は、結局ね今考えてる話で、もとの領域が意味なくなっちゃってると思うんですけどその点はいかがですか。領域外に置いてますよね結局、
0:52:29	電源開発の李です領域外になってしまってるんですけど考え方としては、F14断層の西橋野1点と想定領域の任意の点ですね。
0:52:39	もう1点を結んだような直線で地表トレースを設定するということで領域を使っているということになります。
0:52:47	そういう考えながらわかったところとして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:53	ただそうすると何かこっちって多分網羅性っていう意味とそっちにあって網羅性って意味がちょっと履き違えているかなという印象を私は受けるんだけど、そこは認識は合ってると思っているかどうかだけ使ってくださいそのあとの、
0:53:06	水圧とかそういう話ですとこの場でするべきじゃないと思うので、
0:53:11	網羅性という言葉の意味は一つしかないと思ってるんですけども、そういう意味でいうと我々の考えとしては、
0:53:19	領域に対して、藤恩田西橋の1点と、その他の任意の点1点を結ぶ直線で聞くということが、網羅性だというふうに考えてます。
0:53:28	そこで、御社我々の考えと規制庁さんとの考えがあっていると思ってるんですけども、
0:53:35	そこは我々に判断しかねるかなと思います。
0:53:41	今最後の言葉ちょっとそうですかとかねその前言った話ですごく気になるんだけど、
0:53:46	判断をゆだねるって言い方はちょっとやめてもらえますかそれはなぜかっちゅうと起業しないことを、我々の考えはこういう考えですということが今ご説明した内容でして、
0:53:56	それに対して同じかどうかと同じだと思ってるんですけども、
0:54:01	同じじゃないようなお話だったので、
0:54:04	いかがなんでしょうということなんですけれども。
0:54:11	ちょっとそういうことはちょっと置いといて、まず1回置いといて、終わった後さっきの説明の中ですごい気すごく気になるのは、判断をゆだねるとか、どちらのお考えなんですか。聞く前にまず、
0:54:22	自分たちの考え方をしっかり言ってもらえますか、我々はこういう形でこの場にこの資料を置きましたとか、そういう話になりますけれども、想定領域に対して藤4断層の1. と2の、
0:54:33	もう1点を結ぶ直線というものが網羅性という考えだと。
0:54:37	申し上げております。
0:54:39	わかりましたそこそこまで止めてくださいそれであれば、そんなこっちの判断をゆだねるとかいう言い方、
0:54:46	これも含めてゆいいうのはあんまりよろしくないですよ審査を受ける側としてあなた、例会の考え方を聞いたようにその中で、我々として、
0:54:56	アクセプトできるところとこういう考え方もあるんじゃないですかっていうのを、会合で議論するので、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:01	あくまでまず電源開発の考え方は何かということをはっきりしてください。
0:55:09	この通りすみません、矢内さんのご指摘、その通りだと思いますので以後気をつけます。
0:55:15	駒田。
0:55:18	伴サトウですけどもね。ちょっと今やりとりが、ちょっと総合あったのかなと思いますけども、
0:55:26	前回 11 月、これ 1 年も、ちょうど 1 年 1 ヶ月前ですか 21 年の 11 月 5 日の会合ではね、
0:55:34	断層位置とか傾斜角 A s p e r i t y 時といったパラメーターが隆起再現性に及ぼす影響度や傾向を分析して図示してくださいというふうに横を言ってるんですよ。
0:55:45	で隆起が説明できる領域については代表性網羅性の観点から妥当性を説明することと言っているのですが、ですよ、この 15 ページ今日のご説明聞くとねその規模と最短距離、最短距離ですか敷地からの。
0:56:00	何かその 2 点だけ言葉はちょっとダイレクトですけどエリアというそんな決め方をしているような気がするんですよ。
0:56:10	八木さんおっしゃるように確かにこれ組み合わせ 2 枚モデルにするとね、いろいろ
0:56:16	バリエーションが多くなるのは確かにその通りかもしれないけども、だからそこでやっぱり傾向分析って言うのがやっぱり必要で、
0:56:25	際限なくやっても仕方はないんだけどもどっかで割り切れない等は必要、当然必要なんですけども、
0:56:32	そういったそのチョイスもね、考え方もあろうかなと思うんですけどもね。私はそ、それが網羅性だと思っているんですけども。
0:56:41	そういうご理解はされてないですかね。
0:56:48	福間
0:56:50	複数のもものが引けるということで、ただ
0:56:54	恐喝表となるものは、地震規模と敷地までの距離の二つしかないのかなと。
0:57:01	思っています。
0:57:02	そういう観点でいくとなかなかこう、
0:57:05	絞り込んでいくことが難しいという点が、
0:57:09	あって、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:10	今回は直線状というような、設置したんですけれども、
0:57:15	例外サカモトです。
0:57:17	1年前いただいたSEOの中のコメント等で、網羅性って言うのは、当初我々がまず、結城シミュレーションをやってから、基本ケースを選定すると。
0:57:29	利益の再現性にこだわってるっていう形があったので、本当にきちっとその辺の傾向が掴めているかっていう意味で、網羅性っていうのご指摘をいただいているものだと理解してます。
0:57:40	今回は、冒頭ご説明しましたように、隆起シミュレーションの位置付け下げしておりますので、あくまで必要な影響の観点でどうなんだっていうことだと思ってます。
0:57:50	そうすると、赤ハッチの領域に対して、
0:57:53	どの程度の、どの辺に震源を受け、
0:57:57	その
0:57:58	敷地への影響、
0:57:59	きちっと評価できるかっていう意味でいくと、直線に置き換えて比較したほうがわかりやすいっていうこと。それと、古い構造とは言っても、古い断層があるわけではございませんので、
0:58:11	断層があればそのん。
0:58:13	屈曲した断層をそのままモデル化するっていう考え方あると思いますけど、あくまで断層もなくて、仮想的な震源ですから、こういう考え方。
0:58:23	でもおかしくはないんじゃないかというふうに考えてます。
0:58:29	はい。佐藤ですけども、その一理あると思いますね。そういう考え方で一理はあると思います。
0:58:35	ただね、さっき言ったように確かに前回の審査会合ではね、その隆起をモチダね、そういったものに重みを置いたから、こういう2枚断層にしましたっていう、
0:58:47	説明だったんだけども、今回それとは違ってちょっとワンランク下げているんですけどもですよ。
0:58:54	まだその分析の仕様っていうのはね多分まだまだあるんだろうというふうに思うんですよ。
0:58:59	なので、その網羅性は、前回とはちょっと位置付けが違ってはいますって今阪本さんのお話だったんだけども、
0:59:07	ここはまだね、多分その、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:09	網羅性の検討の余地っていうのは、ちょっとちょっと残ってんですよ実は。
0:59:13	と私は理解してんですけどそこへ、そこら辺いかがですか。
0:59:17	いや規模と位置だけです。
0:59:19	最短距離だけなんですって言われるとねなかなかその我々ずっと落ちないんですけど、
0:59:25	前回サカモトです。
0:59:26	おっしゃってる趣旨はわからなくもないような気もするんですが、
0:59:31	我々もない知恵を絞って、いろいろ考えた挙げ句に、やっぱり、
0:59:37	その
0:59:38	赤ハッチで示した想定領域の中に対して、
0:59:42	どういったらわかりやすく、敷地の影響の観点ですけど結局地震動の評価の場合は、距離と規模の関係で大体決まっていってというのがございますので、
0:59:52	その辺を、
0:59:54	例えばその直線にして、
0:59:57	規模が同じで距離が微妙に多くなっていけば当然一番使うのが大きいというのがわかるわけですし、そういう直感的にわかりやすい形にして、で、
1:00:07	先ほど最初の途中で佐藤さんからご指摘あった。
1:00:11	北側と南側2本にした。
1:00:13	後にまた中間入れてとかっていう話ありましたけどこの辺も、
1:00:18	今何度かちょっと具体的な数字を覚えてないんですけど角度がちょっと開き過ぎてるんで、
1:00:23	地震動評価のその敷地への影響の網羅性の観点ではもうちょっとカイダ、トレース入れた方がいいんじゃないかっていうなことでやってて、それより細かくすることは逆に地震の評価上は、
1:00:34	あんまり意味がないというふうに思ってますので、網羅性の観点って意味でいくとこの3トレースでいいのかなというふうに思ってます。
1:00:42	はい。規制庁佐藤ですけども、一理はあると思います。なぜこう、こういうコメントしているかっていうと、そのさっきも聞きましたけど、アスピリティ後で二つおきますって話になってるよね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:55	ここはね私ちょっとずっと来てないんです実は。そうずっとその最初からその二つを移転や2枚モデル考えてそれぞれにアスペリティ貼り付ければいいんじゃないかなっていう素直に思ってんですけど。
1:01:05	そうするとねこな流れとしてね、美しいですよ。
1:01:10	そう思わないですか。
1:01:12	原野怜雅さんおっしゃることはわかります。わかりますが、先ほど言った
1:01:18	フリー断層があるわけではないと古井断層が、例えば上載層が動いてない断層があるとすれば、それぞれアスペリティを置いてっていうのは当然のことだと思ってますけども、
1:01:29	あくまでその仮想の話なんでまずは知見に基づいて、規模感からはアスペリティ1個、
1:01:35	ていう。
1:01:36	アプローチの方が、
1:01:38	正攻法かなというふうに考えております。先ほど申した通り、
1:01:43	セグメント当たり1個から2個っていうふうな、レシピの指摘もございますので、不確かさとして2項を考慮したと。
1:01:49	ということです。
1:01:52	はい。あとはね私ども、これは後でレシピ見てくださいねレシピ解説を見ていただきたいんですけども、
1:01:59	これやっぱりちょっとねレシピの言わんとしてることとちょっとやっぱり違っているような気がするんですよ。
1:02:06	別に無理にその1枚にしるとは別にレシピでも言ってないし、
1:02:10	なのでちょっとそこのね、その関係性とかね、少し気になってはいるなあとというか、ことで、
1:02:18	従ってさっきみたいなちょっとコメントをさせていただいたんですけどもこれちゃんと審査会合で議論した方がよさそうなので、
1:02:27	別に何か書いていただく必要はないですよ。
1:02:30	御社の考え方としてはわかりました。
1:02:36	とりあえず私から以上です。
1:02:40	経営会議サカモトさんぜひ会合で議論させていただければと思います。他にありますか。
1:02:47	これの方から、2多様なところになってしまって、恐縮なんでそこが論点だと思っていただければと思うんですけども。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:55	末、
1:02:58	どっちから行こうかなどっちも結局落とすところとしては同じところの話なんですけども、
1:03:03	まずう位置付けを発揮、
1:03:08	一応聞きましたけども 2627 ページのところ、
1:03:12	結局その、これも低下するときは、やっぱりアスペリティ後は考えるんですか結局、
1:03:25	0 風間です。
1:03:28	この、ここでやっているシミュレーションのモデル地震動の基本モデルなので、アスペリティ F G の場所に固定です。
1:03:38	以前私の方から申し上げたと思うんです。必ず遊び規律と企画変動の結果ってというのは、
1:03:44	一致しないっていうことを申し上げたかと思ってそれはもう考えないってことですか。結局地震以外、地震が大きな以外、いわゆる直前の準備過程と直後の、
1:03:57	後から変動というところのところで変動を起こるはずだとそれは無視してこれでモデル化するということですか。
1:04:07	リーダー玉野です。その必要があるかどうかは会合で議論させていただきたいと思います。
1:04:14	わかりました。それとまた関連する、これスピーチ二つ置くときのもう一つの、結局以前から説明されて流域を説明するところと、市が、
1:04:24	ほぼ同じだと思うんですけどこれはなぜここに置いてるんですか。
1:04:31	A s p e r i t y 数の電源開発ヤギですアスペリティ数の不確かさケースの、
1:04:36	東側のアスペリティですかね、これに関しては敷地の敷地の断層の中を、
1:04:42	深さ
1:04:44	の範囲で、
1:04:45	敷地に最も近づくような位置に配置してるというものになります。
1:04:51	ということは裏返すとこれが一番、断層最短距離とかを出すと一番近いということよろしいですか。
1:04:59	アスペリティの断層最短距離ですかね。
1:05:02	はい。すいませんちょっと言葉足らずでした。その通り A s p e r i t y だけで、最短距離で出した場合ということ。その通りでして

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:10	えっとですね、多分 31 ページご覧いただきます。例えば 31 ページ。
1:05:17	ですね。
1:05:18	これ規模最大トレースの結果でして、この一番下の段に取り、記載しております、
1:05:24	A s p e r i t y の最短距離ですね。
1:05:26	基本ケースであれば 8.9 キロでアスペリティの不確かさケースの東側一番近くなるように設定したものが 8.3 キロとなっております、このケースでいうと一番近いのは、断層傾斜角の不確かさケースの、
1:05:40	7.2 キロになっているというところがございます。
1:05:43	一方で 33 ページですね。
1:05:46	敷地までの距離が最も近くなる距離最短トレースですね、これに関しましては基本ケースでアスペリティ最短距離が 8.8 で、
1:05:56	衛藤。
1:05:58	アスペリティ数の不確かさケースが 7.1 になるんですけども、結局地震地震規模の不確かさケースもアスペリティは規模が大きくなりますので、
1:06:07	これが一番 6.99 で一番近くなっているということでケースによってバラバラになってしまうというのが、
1:06:12	回答になります。
1:06:16	はい。藤会長ありがとうございます。でも多分、聞くとしてはそういうことで答えてもらう形じゃないと思うんですけども。
1:06:25	例えば 1 個ずらしたらどれぐらい変わるかとかそういうことなんですけど、そういうのは確認をされている。
1:06:30	という理解でいいですか。
1:06:32	そうですね 1 個面ってのは、
1:06:37	ワンメッシュ上に、
1:06:38	深さを負荷上げるとか下げるとかそういうことですかね。
1:06:42	そういう時にその最短距離とか等価震源距離とかを求めると、そちらの方が、
1:06:48	傾向として小さくなる傾向の数字が出てくるかどうかを確認されているかということで、これは確認しております。はい、わかりましたということはもうこれは森木喜多関係なくその敷地への影響という観点で決めているという理解でいいですね。
1:07:09	すいません

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:07:10	檀。
1:07:12	えっとですね。
1:07:15	33 ページご覧いただきたいんですけども、
1:07:19	の断面図ご覧いただきたいんですけども、
1:07:22	今東側のアスペリティっていうのは、断層の中央、中段深さ
1:07:28	に置くことを前提として設定していますので、
1:07:32	断面図で見に行くと斜め線が入ってるような辺りにアスペリティを設定しているということになります。
1:07:38	そうするとやはり、
1:07:40	衛藤。
1:07:41	志岐地区の敷地から下ろした推薦が下りる合流点というのはもっと丈夫になりますので、
1:07:47	上 2 アスペリティを設定すればそれほどそれは敷地に近くなるというのが、
1:07:51	確認しております。ただ今回はアスペリティ新聞に、
1:07:55	配置することが前提だと考えてますので、がその中央に設定しているということになります。
1:08:02	はい、わかりました。わかりました。ありがとうございます。
1:08:09	他にありますか。
1:08:15	大体そんなところですかね。
1:08:17	言い方ですけども私からもですね似たような話なんですけど、やはり今回我々が考えなければいけないのは、地質のところですね、どういう議論があったかというのはすでにもう皆さんご存知の通りで、
1:08:31	12 ページでもいいんですけども、このハッチングのエリアに対して、地震動
1:08:40	を弁済の
1:08:42	地震動評価するためにこのハッチングのエリアというのを決めますということまでが多分合意事項であったんじゃないかなと思ってます。確かに我々が地震動評価上影響が大きいとかですねいろんなその網羅性の話をしたんで今回みたいな検討になってるのかなという。
1:08:58	なんかこう話を聞いているとそんな認識なんですけど、我々はむしろこの範囲を超えてね、やって欲しいということは多分言っていないんじゃないかと思うんですよね。この範囲の中でじゃあどう考えるんですかと。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:10	というのが、一つ僕は品度もしといた方がいいんじゃないかなという点が一つ。
1:09:15	もう一つ、今回は仮想なんであくまでもですよ。東側に断層があるなしっていうところはあんまりね、何かこうリジッドに考えなくてもいいんじゃないかと、皆さんやはり気にされてるようなんですし、
1:09:26	でもちょっと極端な話いうとですね、F14 確かにあるんですけども、F14 はF14 で評価してるわけだから、これはね、こだわってこの下に必ずアスピリティがなきゃいけないと私は考えてないんですよ。
1:09:39	あくまでもこれは全体この領域は仮想的に置いた上で、地質で決着がつかなかったところの隆起の問題というのを地震動に置き換えましょうということなので、そこは何かフラップに考えた方がいいんじゃないかと思ってます。
1:09:52	これ私の意見です。
1:09:54	先ほど来から審査会合で議論しましょうと言ってるので、多分似たような議論になろうかと思えますけれども、我々としては、皆さん、
1:10:05	影響が大きい規模最大とレストという言葉、なんか使われたりしてですね、要はその選定の過程でそもそも規模が大きい小さいとかということには多分ないんだと思うんですね、受けるのはどこなんですかという、
1:10:17	あまりこの、何て言うんすかね。先入観を持ってやらずに、地質で議論した時には、少なくともこの3本引けますよと。なのでこの範囲ですよと言っている限りにおいて、
1:10:28	私なんかむしろ、この三本を起点にしてそれぞれのところに不確かさを考えて評価するというのは何かこう、非常にわかりやすい発想だと思うんですけどね。
1:10:40	私からは以上です。
1:10:49	電源開発の阪本です。
1:10:52	矢田さんのご指摘は内容については理解しました。
1:10:55	我々やはりピンどめAMGのところ、金どうもしているところ。
1:11:01	やっぱり
1:11:03	みそというか、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:05	活断層がある場合は活断層の範囲内にアスペリティを置いてるっていうのが、先行審査の実績でもあると思ってます。ですから活断層から外れたところに、
1:11:16	アスペリティを、浅井市の場合は特に置いたりするのは、
1:11:23	やはり、実例というか事例がないし、先行サイトの審査にも影響するような過程になるんじゃないかっていうなことも考えた上で、このような、今、資料構成の内容にさせていただきます。
1:11:35	これは別に、こう思ってますというだけで、特段
1:11:40	岩田さんのご意見に対してどうこうというつもりはございません。
1:11:53	サトウですけどもすみません私もさっき言いましたけどね、やっぱりこの15ページの段階でね、この段階でそのいやこれが規模が大きくなるんですわ。
1:12:03	というスコツから入っていくのはねやっぱりちょっと違うんじゃないかなと思うんですよ。
1:12:08	いざその、
1:12:10	地震動評価をしてね、いやいやこっちの方がちょっと大きくなるかもしれないねみたいなそういう話はあるかもしれませんが、この段階はまだそのフィロソフィーの話なので、
1:12:20	ここでいやこっちの方が大きくなるんですわとって、こっちがいいんですっていう、その断層モデルの震源断層モデルの設定の考え方っていうのは、
1:12:30	ちょっと違っているのかなという気がしないでもないんですよ実は。
1:12:35	なので、ここはもうフィロソフィーをちゃんと、
1:12:38	うたっていた方がいいのかなと思ったりしてましたが、
1:12:43	ほとんど感想みたいなもんですけども、どうですか阪本さん。
1:12:48	フィロソフィーっていつも耳にするんですがちょっと、その意味がきちんと理解できてないのかもしれないですけど。
1:12:56	やはりその地質調査の段階で議論してハッチングエリア先ほど岩田さんおっしゃった、想定領域の
1:13:04	ある程度合意事項としてあると。
1:13:07	そっから先は地震動評価の観点でどうしていくんだと。
1:13:11	それを組んだということだと思いますので、要は観点が地質の観点から地震動の観点到、徐々にこう移動していくとか移行していく。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:20	そういったプロセスがどうしても必要なのかなというふうに思ってます。
1:13:26	そういう観点でいくと、屈曲したものが地質の観点で受けます。
1:13:30	それを地震動評価上どう料理するかっていうところで、地震動の観点では、
1:13:35	直線にして、
1:13:37	規模が大きくて、
1:13:39	より近づくっていう、
1:13:41	考え方でまず整理させていただいています。
1:13:46	ちょっとソフトに言ったつもりだったんだけど、
1:13:49	あそこに飛躍があるんじゃないかっていうことですよ。
1:13:52	そこに飛躍があろうと私は考えているというコメントなんですよ。
1:13:58	以上です。
1:14:01	ご趣旨理解しました。
1:14:05	はい。大体そんなところですかね。あともう1点言い忘れましたが先ほど来から気になっていて田淵からもコメントしていますし、多分前から発言があるんだと思いますけど、
1:14:15	隆起再現断層という名前ですよ。
1:14:18	これについては
1:14:20	多分介護でまた言うのかもしれませんが、要は再現といってもです。ね結局
1:14:26	リュ地質、
1:14:27	でのその隆起の再現性って話はもうちょっとレイズ置いときましょうということなので、地震動評価においてもどのぐらいのねそのレベル感になると、この、これが07個バツなのかっていう我々判断基準さえ守ってないわけですよ。
1:14:40	なので、地質でお約束をしたところの、領域内でどこまで頑張っていただけますかというところになるかと思いますが、今飛躍という言葉がありました。私もさっき言いましたけども、この領域を飛び出してまで何かこう求めるということになると、
1:14:55	じゃあ、この領域関係なくおいくださいねっていうところになって、じゃあまた地質に戻ってそこ頑張りますかみたいなことになりかねないので、そこはやはり、私、あえて言うのは、もう地質で約束した範囲はもう超えないということにしておかないと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:09	どんだんだんだんまた先祖返りをする可能性もあるので、こんなところ見たらもっと厳しくなるんじゃないかじゃこっちはどうなんだみたいなね、議論を惹起しないように、しっかりこれはね両者の多分、
1:15:20	何て言うかね先祖返りしないためにもね、
1:15:24	ある程度、共通認識を持って進めていったらいいんじゃないかということでも申し上げたつもりです。
1:15:31	あとはすいませんこれもさっきも出たのかな。両括弧の4ページにあるねその下側の四角囲みの二つ目ですね。
1:15:43	多分、私はここはいらんじゃないかと思っていて、この審査ガイドっていう審査ガイドは何ですか、にまた戻るんですけどね、我々も、だからさっき言ったから来る、来るように言ってますけれども、もう約束した範囲であとは地震動評価でどう料理をしましょうかという世界なので、
1:15:58	そこをね、超えない範囲でやっていただければいいので、ここはさっきおまけだったか、補足だったか忘れちゃったけれども、
1:16:06	そういう位置付けにするのであれば、説明の、
1:16:10	ほぼ水気っていうんですかね、どこに持ってくるかということも含めてですね、これもう1回やはり整理をしていただけたらいいんじゃないかと思いました。
1:16:19	資料を直す必要はないですよという話だったのでこれで審査会合には書けるとしてですよ。
1:16:28	前回やったその他のね、F14と、李奥尻3年度の
1:16:34	資料の整理の状況だけ教えていただけますか。
1:16:40	鎌田委員笠間です。F14と大串につきましてはご指摘としてその基本ケースの考え方或いは藤尾の場合は基本ケースの考え方それと、
1:16:51	断層位置の不確かさの考え方の整理っていうふうに、
1:16:55	認識しております。それについてはちょっと今いろいろ検討中で、
1:16:59	資料カーの手前でどうだったっていう認識しますと、まず考え方の整理をしてる段階でございます。奥川につきましては、破壊開始点の設置、
1:17:13	古市の話と、理論地震動、NGEM理論的地震動ありましたけども理論評価が、その辺についても、まず、実際にどういう計算やって、計算した結果がこうなるっていうのをきちっと、
1:17:26	まず頭で理解することを進めてございます。
1:17:29	破壊開始点については、いろいろと今学識者も含めて、いろいろと

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:36	行使してご教示いただいているような状況で、
1:17:40	それを全部整理してから、資料化することになりますので、
1:17:44	年明け。
1:17:46	で、
1:17:47	少々お時間かかるような感じだと思ってます。
1:17:51	はい、わかりました。大体そんなスケジュール感を持って我々としても認識しておきます。これ前にも言ったかもしれませんがやはりF14とかですね、隆起再現断層、すいません
1:18:04	富士3連動についてはですね我々ね、正直申し上げても整理の話だと思っているので、そこさえ片付けばですね次のステップに進めるんじゃないかというところと、
1:18:15	重みづけでいうと、あとは隆起再現断層についてもですねこれは方針なんで、同じようなレベル感でやるという意味ではね、一つの審査会合の中で3件を使おうというふうに思っていますので、
1:18:25	そちらの準備ができた段階で、また、審査会合のスケジュールについては調整をさせていただければと思います。私から以上です。
1:18:34	映画サカモトです。わかりました。先ほどちょっとFujiのところ、断層位置の不確かさについては一応、
1:18:40	絞り込んで、絞り込んだほうがいいっていうような、
1:18:45	お話をいただきましたので、1ケースに何とかその絞り込んで地震動評価は、その1ケースについてのみ示すというような考え方でまとめられるように今、
1:18:56	検討中でございます。以上です。
1:19:00	はい、わかりました。そうしましたら以上にしたいと思いますが、何か確認したいこととかありますか。
1:19:11	電源開発高岡でございますこちらで確認したいことは今、すべてこの段階では出ましたので、こちらからはございません。
1:19:20	はい、わかりました。そうしましたらヒアリングは以上にしたいと思います。多分、今年はこれで最後だと思いますので。はい。どうもいろいろお疲れ様でした。引き続き来年もよろしくお願いいたします。
1:19:31	はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。